

たまいたま

川柳



夜桜と月

2020年（令和2年）
4月号（No.725）

日川協加盟

巻頭言

わかこころをうごかす

願法みつる

二〇二〇年の始まりは、新型コロナウイルスというミクロ生物の侵入で、地球上が恐怖に晒されました。この誌が発行される頃の状態予測も困難で、人類は息を潜めています。人間愛・科学論・宗教論・政治論も方向が見えませんが、化学・医学の先生方の奮闘を待っているだけです。

そんな中、マスクが買い占められたり、大量に盗まれたり、高額でネット販売されるなどの小悪が流行りました。庶民の恐怖感から生じる細やかな悪行です。トイレットペーパーやティッシュの買い占めに走るのも憎めません。自分と家族さえ良ければ、と言う考えは、競争社会です。自分から始めることは出来ません。しかし心の中では忸怩たるものがあるでしょう。宗教が論ずる他を愛する行いも、この際は踏み付けられます。庶民は、「わかこころをうごかす」をやめられない」という土壇場にあるのです。

電話詐欺や幼児虐待やあおり運転のような大逆は、まさに地獄道ですが、「わかこころをうごかす」をやめられない。畜生道くらいで許されるのでしょうか。それでもそんな風潮がはびこること自体、人間関係が益々卑屈なものになります。ウイルス騒ぎが収束した後は、お互いに涼しい顔をしてまた善人ぶるのでしょうか。

社会的・経済的に歪曲してしまっただ後の正常化の方向が案ぜられます。「小悪魔のデマへ臆病走り出す」

日日是好

願法みつる

ウイルスへ何が憎いと問う阿弥陀
街中がゾンビだらけの色眼鏡

キスは駄目ベビーも危険知る世間

地下鉄も窓全開で走ろうか

見えぬ敵七十五日待ってます